

苫小牧駒澤大学紀要 論文一覧

創刊号 1999年3月31日発行

- 大久保治男 「苫小牧駒澤大学紀要」創刊を祝う
大久保治男 徳川幕府刑法における責任論(1)
佐久間賢祐 道元禪師の実体論批判—戒解釈の視点に関連して—
清水 賢一 維盛都落小考
林 晃平 浦島寺略縁起の変貌をめぐり
今井 敏勝 楽器による音楽表現研究—リコーダーを使った音楽教育と指導法—
谷村 善通 イギリス文化教授法の改善をめざして—ハノーヴァー朝(ヴィクトリア女王まで)をめぐって
嶺 金治 『オセロ』の研究—イアーゴの性格をめぐって—
ジョージ・ワット 存在の非二元性と相関性(英文)

第2号 1999年10月31日発行

- 大久保治男 徳川幕府刑法における責任論(2)
林 晃平 所謂御伽草子「浦島太郎」再考・その2—流布本に関する23の問題を中心に—
加藤登喜男 学校教育改正の視点に立つ学社融合のとらえ方
マイケル・キンドラー 日本人の学習方法とソクラテス問答形式の研究:適合性と非適合性の差違(英文)
東 裕 フィジー諸島共和国憲法(1997年)における人権と原住民の権利
村井 泰廣 南部バプテテスト会議 宣教師 T.W・ホエリー:神の召命と葛藤
ジョージ・ワット 無限なる投影:パトリック・ホワイトの多重自己「ひとつからなる多くの回想録」(英文)

第3号 2000年3月31日発行

- 齋藤 俊哉 『正法眼蔵』における「心」の構造について(3)—「心是衆生、衆生是心」についての一考察—
林 晃平 2人の浦島次郎—幸堂得知と幸田露伴の浦島伝説をめぐり—
室本 弘道 高度情報化社会がもたらす我が国における国民意識の変化
今井 敏勝 楽器による音楽表現研究 III—学校教育における管・打楽器活動の展望—
ロバート・カール・オルソン ナチュラルアプローチ—苫小牧駒澤大学英語クラスに適用可能な教授法について The Natural Approach: Possible applications to a Tomakomai Komazawa University English classroom
マイケル・キンドラー 川岸のクランシー:オーストラリア文学の異文化間教授法(英文)
小林 守 コラムバ批判書の梗概
東 裕 「パシフィック・ウェイ」概念の再検討—太平洋世界の政治文化・法文化を考えるために—
嶺 金治 エドモンドに投影されたイアーゴの影
襄島 栄紀 古代北方史研究のための覚え書き
ジョージ・ワット ロバート・ヨウの現代シンガポール演劇「セカンド・チャンス」における異なるアプローチの比較(英文)
村井 泰廣 <翻訳>「コールドロンの戦い」『500 ネーション』(第5部)

第4号 2000年9月30日発行

- 篠原 昌彦 三浦綾子『銃口』における歴史意識の構造
伊藤 博之 情報処理基礎教育における5分間実技試験の開発と運用
マイケル・キンドラー／ジョージ・ワット 国際化教育または白欧主義政策？ 日本での英語教育の再評価
小林 守 Pratiyasa mutpādārdaya 敦煌出土漢訳・藏訳テキスト
高木 良平 1998年から99年の日本におけるグリム・ブームについて—なぜ日本人はグリム童話が好きなのか—
林 晃平 片岡政行英訳『うらしま』覚書
東 裕 クーデタの法理について—フィジーのクーデタ（1987年）を中心に—
嶺 金治 『リア王』に見られる権力闘争

第5号 2001年3月31日発行

- 清水 賢一教授退職記念号
学長 大久保治男 清水賢一教授の定年御退職によせて
学部長 嶺 金治 清水先生の送別に当たって
清水 賢一教授 略歴および主な業績
清水 賢一 知章説話小考～『平家物語』にみる戦場での父と子～
近藤 良一 禅林聯句連歌の研究〔I〕
齋藤 俊哉 『正法眼蔵』における「心」の構造について(4)―「発心」に関する一試論(1)―
篠原 昌彦 『三四郎』における近代の表現と女性叙述の問題
伊藤 博之 パスワード管理の運用を通じたユーザ教育について
植木 哲也 真理のプラグマティクス
佐藤 郁子 ジェイン・オースティンの術策について—『エマ』における喜劇的空想—
関 稔 仏弟子スバッド考
谷村 善通 オクタヴィア・ヒルのオープン・スペース運動とその現代的意義
東 裕 フィジークーデタ（2000年）の憲法政治学的考察
村井 泰廣 言語文化から見る国民性の一考察：日本語の「なる」表現と英語の「する」表現の位相
室本 弘道 21世紀初頭のわが国の安全保障

第6号 2001年9月30日発行

- 杉山 四郎 「勇払会所」の復元をめぐる
立川 章次 山梨県立図書館、甲州文庫所蔵「安政年間 亜墨利加紀行 乾」
林 晃平 所謂御伽草子「浦島太郎」流布本イC系統について—石川透氏の絵巻筆者の説をうけて—
青木麻衣子 オーストラリアの言語教育政策の歴史的展開—英語以外の言語の教育に視点を当てて—
ロバート・カール・オルソン アスパーガーズの症候群：危険な無秩序または誤解された病気？（英文）
川島 和浩 財務業績計算書について
永石啓高・長倉誠一 ヨーロッパの未来と多文化の共存—ドイツを中心として—
東 裕 クーデタと司法権—フィジー控訴裁判所判決（01/03/2001）の批判的検討—
村井 泰廣 アメリカ合衆国におけるアジア系アメリカ人：アジア系移民の苦闘と功績
室本 弘道 急加速する「情報軍事革命」—我が国の対応—

第7号 2002年3月31日発行

- 齋藤 俊哉 『正法眼蔵』における「心」の構造について(5)
篠原 昌彦 森竹竹市『レラコラチ (風のように)』における短歌表現
立川 章次 『安政年間 亜墨利加紀行 坤』
嶺 金治 『リア王』におけるコーディネリアの役割
室本 弘道 新しい戦争の時代へ―「インフォメーション・ウォーフェア」
マイケル・キンドラー 地方から異文化へ：全世界的理解のための方法 (英文)
東 裕 ニューカレドニアの統治機構―政治制度から見た内政自治の現状―
高木 良平 ドイツ・ロマン主義と民謡研究
石 純姫 東アジアにおける言語の「近代化」についての一考察―植民地における「主体」をめぐって―
ロバート・カール・オルソン ジェイコブソンの「バックワード形成」理論 JACOBSON'S "BACKWARDS-BUILDING" THEORY

第8号 2002年11月30日発行

- 大久保治男 彦根藩「大久保家文書」(1)
林 晃平 龍宮のイメージの形成―近世の浦島伝説とその周辺をめぐって―
高嶋めぐみ 婚姻史研究―若者組再考(1)―
室本 弘道 有事立法と後方―防衛論議におけるわが国のロジスチックスの考え方―
マイケル・キンドラー 世界的に見たオーストラリア像―多文化社会におけるナショナル・アイデンティティをめぐる衝突について―(英文)
東 裕 植民地下フィジーの自治行政制度―フィジー人行政 (Fijian Administration) の構造と機能―
谷村 善通 ヴィクトリア朝時代の知識人に見られる見識と国際感覚―ザ・グラフィック紙の復刻版を通読して―
石田 清史 外国人私費留学生の現状―アンケート調査を中心として―
ロバート・カール・オルソン フリーター世代に英語をおしえるということ (英文)
山崎 和邦 戦後日本のビジネスサイクルに対する株価の先行性についての実証的検証

第9号 2003年3月31日発行

- 学長 近藤 良一 四先生の退職に寄せる
大久保治男教授 略歴及び主な業績
大久保治男 一教育行政の実践事例―公私協力大学・苫小牧駒澤大学開学への軌跡―その黎明期と胎動期の苦難―
齋藤俊哉教授 略歴及び主な業績
齋藤 俊哉 『正法眼蔵』における「心」の構造について(6)
高嶋めぐみ 婚姻史研究―若者組再考(2)―
佐々木不可止教授 略歴及び主な業績
佐々木不可止 有限体上の多項式の既約多項式への分解―シリーズとしての高信頼度符号系の生成―
谷村善通助教授 略歴及び主な業績
谷村 善通 日本の英語教育―大学が英語教養主義を捨てなければ、英語教育の改革はない―
佐藤 郁子 ジェイン・オースティンの啓蒙的態度について―小説に反映された隣人たち―
室本 弘道 ヒトはなぜ争いをやめないのか

- 川島 和浩 外資表示財務諸表における換算方法の考察
高木 良平 大学における「ドイツ文化」の授業を考える
石 純姫 日本語教育の歴史(1)―台湾統治における言語教育とその思想をめぐって―
石田 清史 中国人私費留学生の動向
ロバート・カール・オルソン 英語を学生が学びやすくするための「バリアフリー」コミュニケーション (英文)
劉 長征 外国人留学生に対する情報処理教育の現状と課題

第 10 号 2003 年 11 月 30 日発行

- 高嶋めぐみ 妻問婚にみる求愛求婚行為再考
東 裕 フィジー「複数政党内閣事件」最高裁判決 (18/07/2003) について
室本 弘道 イラク戦争後の国際情勢とわが国の安全保障
伊藤 勝久 社会地図学：その主張と批判(1) (英文)
川島 和浩 税効果会計に関する考察
石田 清史 中国人留学生の実態
坂部 望 情報都市形成と法に関する一考察―マレーシアの実例から

第 11 号 2004 年 3 月 31 日発行

- 篠原 昌彦 1930 年代における反ファシズム文学論―『党生活者』をケース・スタディとして―
林 晃平 昔話・伝説における異郷の表現とイメージ―浦島伝説を視点として―
村井 泰廣 <翻訳>「文化とは何か」『文化の危機』(第 3 章)
伊藤 勝久 社会地図学：その主張と批判(2) (英文)
ロバート・カール・オルソン 「和製」英語の考察 (英文)
セス ユージン・セルバンテス 強制力と 2 言語使用教育 (英文)
楊 志剛 日本語の動詞による名詞の格支配の指導―に格の名詞と動詞とのくみあわせを中心に―
野田 孝子 「日本事情」科目の可能性

第 12 号 2004 年 11 月 30 日発行

- 篠原 昌彦 森竹竹市『原始林』『レラコラチ』における日本語と母語の問題
林 晃平 龍宮門ノート―浦島伝説のイメージ形成を視点として―
高嶋めぐみ 妻の離婚請求再考―三行半・縁切俗信・駆込寺―
村井 泰廣 「自民族中心主義と多文化主義」『文化の危機』(第 2 章)
植木 哲也 隠された知―アイヌ教育と開拓政策―
永石 啓高 同時多発テロが「文明世界」に与えた衝撃
ロバート・カール・オルソン コミュニケーション戦略「フレーミング」の考察 (英文)
石 純姫 日本語教育の歴史(2)―日本統治期台湾少数民族への言語支配―
坂部 望 シンガポールにおける IT 関連立法の一例
セス ユージン・セルバンテス 日本の EFL の背景にあるリーディング成功への壁 (英文)
野田 孝子 中国人の日本イメージ―『人民日報』を通して

第 13 号 2005 年 3 月 31 日発行

- 林 晃平 翻刻『浦島太郎一代記』―在地伝承の新資料の紹介と解題―

- 伊藤 勝久 地図のメタファー (英文)
ロバート・カール・オルソン ESLクラスにおける日本人の視覚的繊細性とカタカナ (英文)
セス ユージン・セルバンテス 日本の英語接触の一断面—近世末期から占領期日本—(英文)
野田 孝子 戦没者追悼式報道と歴史認識問題—『人民日報を通して』—

第14号 2005年11月31日発行

- 植木 哲也 児玉作左衛門のアイヌ頭骨発掘(1)—背景と概要—
ロバート・カール・オルソン 「ジャパニーズ・オンリー」批判、人種差別を考える (英文)
石田 清史 近代日本に於る参審の伝統—裁判員制度を契機として—
セス ユージン・セルバンテス 日本における「リング・フランカ」としての英語が出現した歴史的
背景 (英文)
野田 孝子 インタビュー活動を用いた「日本事情」科目の実践
加藤登喜男 〈翻訳〉 どうしてシマウマは黒いシマシマなの？

第15号 2006年3月31日発行

- 松本 祐光教授・近藤良一教授退職記念号
学長 関 稔 松本・近藤両先生のご退職に寄せて
近藤 良一教授 略歴および主な業績
近藤 良一 研究余話 禅宗古辞典を読む
松本 祐光教授 略歴および主な業績
松本 祐光 苫小牧駒澤大学の企業研修制度 (インターンシップ) —実績と課題—
東 裕 豪州の対ソロモン諸島援助—RAMSI 派遣による援助パラダイムの転換—
佐藤 郁子 オースティンの世界に広がる深遠なる警世—リージェンシーからヴィクトリアンへ—
藤原 亮一 対人援助職の見る現実—生活史資料を読み解く—
村井 泰廣 言語と文化と：ハワイ語学校の教育現場から考える
植木 哲也 児玉作左衛門のアイヌ頭骨発掘(2)—研究の諸問題—
川島 和浩 JIT生産方式におけるバックフラッシュ原価計算の考察
ロバート・カール・オルソン 「ホット・ボックシング」を使った英会話授業
セス・ユージン・セルバンテス 日本における語学教育者はプロであるか

第16号 2006年11月30日発行

- 林 晃平 龍宮門ノート・2—浦島伝説のイメージ形成を視点として—
高嶋めぐみ 封建時代における嫁の地位—文学が描く嫁像—
植木 哲也 児玉作左衛門のアイヌ頭骨発掘(3)—大後頭孔の「人為的」損傷—
永石 啓高 オリニピック憲章に規定されるオリニピック理念
川島 和浩 保険医療材料制度改革の動向と原価計算の課題
セス・ユージン・セルバンテス 授業における問題行動の一考察：仲裁への試み(1)

第17号 2007年3月31日発行

- 篠原 昌彦 谷村志徳『余命』論—終末期医療の文学表現—
菅原 諭貴 愛知学院大学図書館所蔵『永平広録點茶湯』の翻刻(3)
植木 哲也 児玉作左衛門のアイヌ頭骨発掘(4)—発掘の論理と倫理—
ロバート・カール・オルソン 大学の英語教育におけるディベートの効用 (英文)

セス・ユージン・セルバンテス グローバル化社会における日本での英語コミュニケーション教授法
(英文)